



田須美弘よりお知らせです。  
 この度は諸事情により、バイマンスリーワーズをお休みいたします。  
 初めてのことでご心配をおかけしますが、7月にはまたお送りできますので  
 しばらくお待ちいただきますようよろしくお願いいたします。

今回はバイマンスリーワーズ番外編ということで、過去のバイマンスリーワーズより  
 抜粋してご紹介させていただきます。

「思い出した!」「こんな話があったのか」「また読んでみたい」など、新たな発見が  
 あれば幸いです。

作成月	タイトル	内容要約
2018年5月	対立しつつ調和する 	労使関係やトップと幹部の関係において重要なのは、対立を避けることではなく「対立しつつ調和する」姿勢です。松下幸之助の言葉と事例を通じ、進言と諫言を受け止める度量、そして無条件の信頼が組織を強くするでしょう。幹部の自立した意見を歓迎し、信頼を基盤に組織力を高める経営の在り方を論じます。
2020年5月	予断を持たない 	コロナ禍を背景に、経営者に求められる姿勢として「予断を持たず今に最善を尽くす」禅的思考を紹介します。キャッシュ確保や事業の偏り回避、BCPの重要性を示しつつ、未来を悲観的に決めつけない心の持ち方を説明します。社員の命と会社を守る覚悟こそが、不確実な時代を乗り切る軸になります。
2021年5月	天火同人 	易経「天火同人」をテーマに、異なる個性や価値観を持つ人々が志を共有することの重要性を示しました。パラリンピアン河合純一氏の言葉を通じ、多様性をすり潰すのではなく生かし合う組織づくりを提示。トップと後継者、幹部同士の関係を陰陽の補完として捉え、対立を超えた共生を目指す経営を提案します。
2022年5月	なんとかなる 	「倒産の原因は経営者の心の中にある」―八起会・野口誠一氏の言葉が示すように、経営危機の本質は外部環境ではなく内側にあります。心の冷えが組織全体を蝕む前に、経営者・幹部・後継者が知るべき危機突破のマインドセットとは。一休禅師の「なんとかなる」に学ぶ、逆境を希望に変える経営の心得をご紹介します。
2023年5月	天を楽しみ 命を知る 	大谷翔平選手や薬師寺・高田好胤師の生き方を題材に、「天を楽しみ、命を知る」という易経の教えを紹介합니다。天命に従い心から楽しめる道を選んだ人は、大きな困難にも耐え抜く力を得ます。人生や経営の分岐点では、損得ではなく天の声に耳を澄ます姿勢が重要でしょう。



2023年9月	自分に厳しく 人にやさしく 	「自分に厳しく、人にやさしく」を軸に、経営者の人間力とリーダーシップについて紹介します。5S活動や掃除の実践を例に、トップ自らが模範を示すことで組織文化が育ちます。権力で人を動かすのではなく、人徳によって信頼を得る姿勢こそが、持続的な経営の土台になると考えます。
2024年5月	観の目 つよく 	フィルターバブルや偽情報が蔓延する時代において、経営者に必要な「観の目」を紹介。局所を見る「見の目」ではなく、全体を捉える心の目を鍛えることが重要だという宮本武蔵の教えから、騙す力を知りつつも悪に流されない、もう一人の自分を育てる判断力の必要性を示します。
2024年9月	やむをえず 	荘子の「やむをえず」の思想を通じ、究極の受け身が主体性へ転化する過程を紹介します。後継者と先代経営者の葛藤を例に、抵抗ではなく受け身に徹することで周囲を巻き込み成長できます。変化を力に変える柔軟さと、自然の理に任せる心構えの重要性を伝えます。
2024年11月	善転のすすめ 	仏教哲学「三性の理」を切り口に、善悪は固定されたものではなく人の捉え方次第で転換できます。経営上の逆境やクレームも、無記の次元に引き上げれば善に転じ得るでしょう。悪に直面したときの善転、順調なときの慢心への戒めを通じ、判断の成熟を促します。
2025年5月	権力の奴隷になるな 	経済的豊かさだけでは人は幸せになれないという問題提起から、健康・心・徳の重要性を紹介します。幸田露伴の「惜福・分福・植福」を通じ、福を使い切らず育て社会に還元する生き方を紹介。企業活動もまた幸せを生む源であるべきだとし、長期視点の経営哲学を示します。
2025年7月	情けは人の為ならず 	世代や立場を超えた心の「キャッチボール」の重要性から、対話が失われた組織の危うさに警鐘を鳴らしたい。経営者が一方的に語るのではなく、相手の思いを受け取り返す姿勢が信頼を生みます。日常の小さな対話の積み重ねが、組織の一体感と危機対応力を高めるでしょう。
2025年9月	こだわらない 	占いや理論に頼るのではなく、自分の内面と向き合うことの大切さを紹介。不立文字の禅思想を背景に、言葉や理屈を超えた体験と実践が人を成長させます。経営においても答えは外に求めるものではなく、行動の中で体得されるという、覚悟ある生き方を提案します。

7月にまたお会いしましょう！

